

筑豊地域における

保育現場の音楽活動についての現状と課題

—保育者アンケートの分析を通して—

上田 浩平 堀田 亮 立石 力斗

垂見 直樹 高木 義栄 橋本 翼 原口 喜充

Current Status and Issues Regarding Music Activities
in Childcare Sites in the Chikuho area

—Through the analysis of the childcare questionnaire—

Kohei Ueda Ryo Hotta Rikito Tateishi
Naoki Tarumi Yoshihide Takaki
Tsubasa Hashimoto Hisami Haraguchi

Abstract

In this paper, we conducted a questionnaire survey of childcare workers employed at daycare and kindergarten facilities in the Chikuho area to ascertain their current understanding of music activities. There were 182 respondents. Co-occurrence networks were extracted from the free descriptions to obtain more detailed results. In addition to gaining an understanding of the current status of music activities in actual childcare settings, we were also able to confirm how the significance of music activities is perceived by childcare providers. Based on these results, issues for future music activities in the Chikuho area were extracted.

Keywords : Music Activities, Childcare, Chikuho area, Co-occurrence networks

1. はじめに

現在、幼児の音楽教育について、「リトミック」や「コダーイシステム」などの身体活動や歌の実践を伴う教育方法（岡部, 2009；高牧, 松井, 荒金, 2020 等）、あるいは「手あそびうた」などの効果に関する研究（白石, 2006；今, 尾辻, 2021 等）が多くなされている。

音楽活動においては、非認知的スキルとしての実行機能（executive function）への好影響（間接的なトレーニング効果）が指摘されている¹⁾。Kosokabe et al. (2021) は、自主的な遊びの要素が多く取り入れられた、劇遊びと音楽遊びのプログラムに 6 週間にわたり参加した子どもたちと、そうでない子どもたちとを比較し、プログラムの実行機能への影響を測定した。その結果、ワーキングメモリ、自己抑制的コントロールのパフォーマンスに有意な改善が見られたとしている²⁾。

音楽活動の効果が実証的に明らかにされつつあり、日本でも専門家によるリトミックの指導法の研究や実践は大に行われているが、実際の保育現場で保育者が子どもたちとどのような活動を行っているのかの実態把握を行った調査は不足している。ここ福岡の筑豊地域においても例外ではない。保育現場において、保育者と子どもたちが音楽活動を共有することができてはじめて、その意義がなされるものである。

本研究の目的は、保育者へアンケート調査を実施し、保育現場での音楽活動の現状と取り組みを把握し、実際に子どもたちが体験している活動の実態を可視化することである。本研究を通し、保育現場における音楽活動の課題を抽出することで、筑豊地域における保育の質の更なる向上を目指していきたいと考える。

2. 調査方法

(1) 対象及び実施期間

福岡県の筑豊地域にある保育施設（保育所、幼稚園、認定こども園）に勤務する保育者を対象とした。Google Form を用いたアンケートで 142 の保育施設に協力を依頼し、2023 年 2 月から 3 月に実施した。

(2) 質問項目

質問① 音楽活動の取入れの有無（「はい」「いいえ」から選択）

質問② 園生活で音楽活動を取り入れることは有意義だと感じていますか？（「はい」「いいえ」から選択）

質問③ 子どもの発達への影響（5 段階評定）

質問④ 歌う以外の音楽活動（「はい」「いいえ」から選択及び「はい」と回答した 103 名の保育者には、歌う以外の音楽活動の内容について「合唱」「鼓笛隊やマーチング」「和太鼓」「ピアノ等の鍵盤楽器」「弦楽器」から選択する質問を行った（複数回答可）。自由記述。）

(3) 分析方法

選択式の質問である質問①と質問②については、単純集計を行った。5段階評定及び複数選択回答、自由記述の質問である質問③と質問④については、音楽活動を取り入れている場面および音楽活動に感じる意義についての保育者の認識の構造を把握することを目的とした。そこで、テキストデータを数量的に扱うことで、内容分析を行うことができる計量テキスト分析（樋口、2014）を行った。テキストデータの分析には、文章で同時に使用されることが多い語同士をエッジで結び、図示する計量テキスト分析手法（樋口、2014）である共起ネットワーク分析をおこなった。

共起ネットワーク分析により描画される図において、抽出語はノード (node) と呼ばれ、円として示される。抽出語の出現頻度は、円の大きさによって表現される。抽出語間の共起関係はエッジ (edge) と呼ばれ、円同士を結ぶ線で表現される。線上に、共起関係の指標である Jaccard 係数を付した。Jaccard 係数とは、0 から 1 までの数字において関連が強いほど 1 に近づく。

図示される語やエッジが過多であると語の分類や意味の正確な解釈が困難となる（樋口、2014）ため、図示される語が 50 語内になるように出現頻度を調整したとともに、Jaccard 係数が 0.2 以上を示した語と語との関連を分析対象とした。

(4) 倫理的配慮

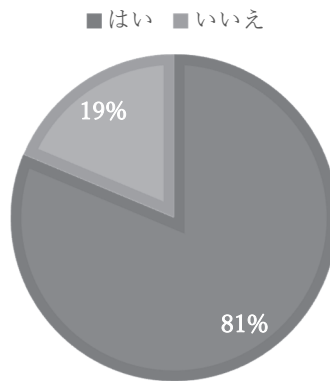
調査への協力は任意であり、協力しないことで不利益を被ることがない旨を依頼文にて明記した。また、調査への返答を以って調査への同意を得ることとした。本研究は、近畿大学九州短期大学研究理論委員会の審査・承認を得て実施された（承認番号第 1 番）。

3. 結果

筑豊地区の 43 の施設から 182 名の保育者（保育所 129、幼稚園 18、認定こども園 24、不明 11）の回答が得られた。

① 音楽活動の取り入れの有無

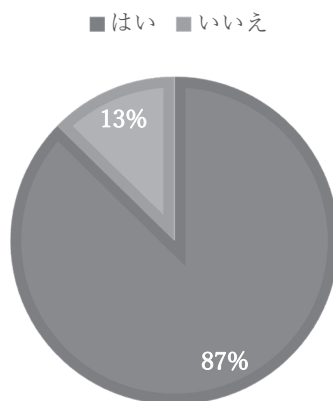
音楽活動の取り入れの有無について分布をみたところ、取り入れていると回答した保育者が 148 名（81%）。取り入れていないと回答した保育者が 34 名（19%）であった（図 1）。



(図1) 音楽活動の取入れの有無

② 音楽活動の意義

音楽活動の意義について分布をみたところ、有意義であると感じると回答した保育者が159名(87%)、有意義でないと感じると回答した保育者が23名(13%)であった(図2)。

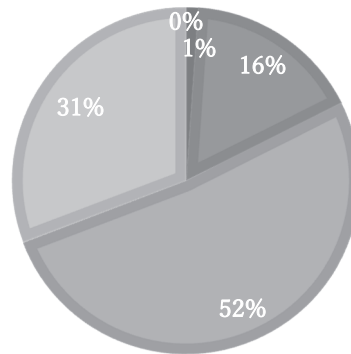


(図2) 音楽活動が有意義だと感じるか

③ 子どもの発達への影響

言葉の発達への影響について分布をみたところ、全く影響しないと回答した保育者は0名、あまり影響しないと回答した保育者が2名(1%)、やや影響すると回答した保育者30名(16%)、影響すると回答した保育者が94名(52%)、大いに影響すると回答した保育者が56名(31%)であった(図3)。

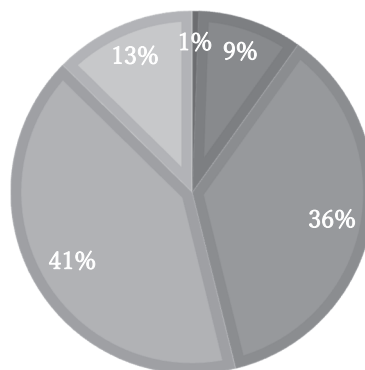
■ 全く影響しない ■ あまり影響しない ■ やや影響する
 ■ 影響する ■ 大いに影響する



(図 3) 言葉の発達への影響

また、身体の発達への影響について分布をみたところ、全く影響しないと回答した保育者は1名(1%)、あまり影響しないと回答した保育者が17名(9%)、やや影響すると回答した保育者66名(36%)、影響すると回答した保育者が75名(41%)、大いに影響すると回答した保育者が23名(13%)であった(図4)。

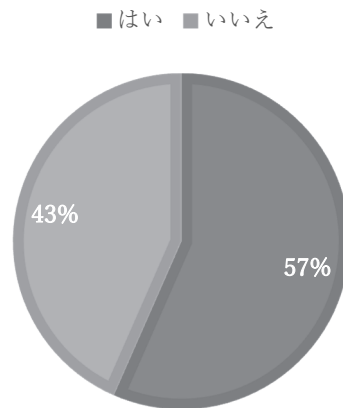
■ 全く影響しない ■ あまり影響しない ■ やや影響する
 ■ 影響する ■ 大いに影響する



(図 4) 身体の発達の影響

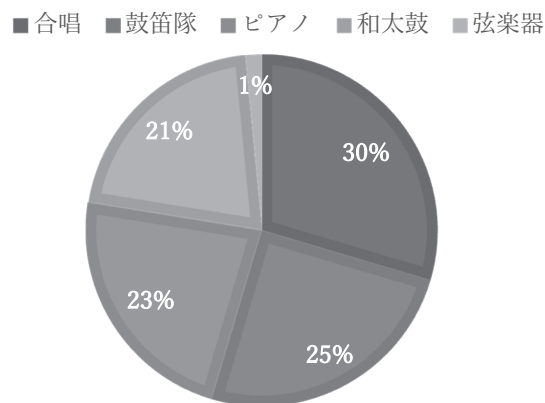
④ 歌う以外の音楽活動

歌う以外の音楽活動の有無について分布をみたところ、歌う以外の活動をしていると回答した保育者が103名(57%)、していないと回答した保育者が79名(43%)であった(図5)。



(図 5) 歌う以外の音楽活動の有無

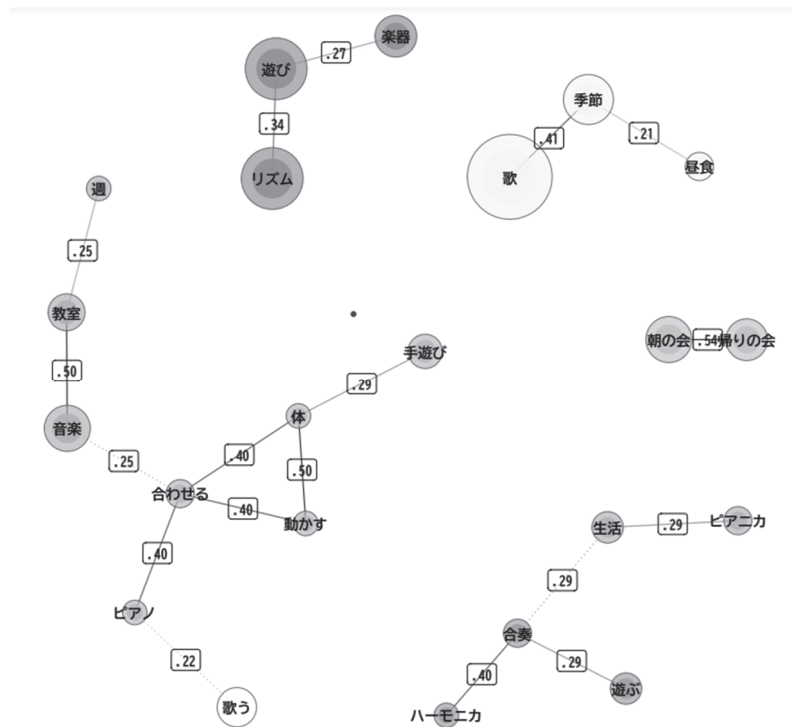
また、歌う以外の活動としては、「合唱」58名(30%)、「鼓笛隊やマーチング」49名(25%)、「ピアノ等の鍵盤楽器」45名(23%)、「和太鼓」41名(21%)、「弦楽器」3名(1%)の順であることが明らかとなった(図 6)。



(図 6) 歌う以外の音楽活動

4. 音楽活動に係る自由記述における語の共起関係

「どんな時に音楽活動を取り入れていますか？」という質問文に対する自由記述の回答結果を基に、形態素分析によって抽出された 202 語の異なり語を対象に共起ネットワーク分析を行った(図 7)。なお、出現回数が 3 回以上の語について分析した。



(図7) 音楽活動を取り入れている場面に関する共起ネットワーク

第一に、「リズム」「遊び」「楽器」の語の関連が認められた。これらは、遊びの中でリズムや楽器を用いていることを示すと考え、【リズムあそび】として分類・整理した。

第二に、「歌」「季節」「昼食」の語の関連が認められた。これらは、季節の音楽を用いていることを示すと考え、【季節のうた】として分類・整理した。

第三に、「朝の会」「帰りの会」の語の関連が認められた。これらは、園生活において日々行われている活動の際に用いていることを示すと考え、【生活のうた】として分類・整理した。

第四に、「音楽」「教室」「週」の語の関連が認められた。これらは、教室で日常的に用いている音楽を示すと考え、【教室の音楽】として分類・整理した。

第五に、「手遊び」「体」「合わせる」「動かす」「ピアノ」の語の関連が認められた。これらは、手遊び歌を用いていることを示すと考え、【手あそびうた】として分類・整理した。

第六に、「ハーモニカ」「合奏」「遊ぶ」の語の関連が認められた。これらは、楽器をみんなで演奏することを示すと考え、【器楽合奏】として分類・整理した。

第七に、「生活」「ピアノ」の語の関連が認められた。これらは第六の【器楽合奏】と類似しているが、生活の中に用いられることを示すと考え、【器楽演奏】として分類・整理した。

第一に、「子ども」「楽しい」「感じる」「歌う」「季節」などの語の関連が認められた。これらは音楽活動を行うことにより、季節を感じる心の育ちに対して意義を感じていると考え、【季節を感じる心の育成】として分類・整理した。

第二に、「音楽」「合わせる」「動かす」「身体」などの語の関連が認められた。これらは、一緒に音楽を合わせることに對し意義を感じていると考え、【協調性の育成】として分類・整理した。

第三に、「触れる」「楽器」「色々」「音」などの語の関連が認められた。これらは、触ったり、聞いたりすることに對し意義を感じていると考え、【諸感覚の育成】として分類・整理した。

第四に、「思う」「養う」「感性」「言葉」の語の関連が認められた。これらは、【感性の育成】として分類・整理した。

第五に、「豊か」「心」の関連が認められた。これらは、子どもの豊かな心の育ちに対して意義を感じていると考え、【豊かな心の育成】として分類・整理した。

第六に、「活動」「意欲」の語の関連が認められた。これらは、意欲的に活動することで表現しようとする力に對し意義を感じていると考え、【表現力の育成】として分類・整理した。

第七に、「見る」「姿」の語の関連が認められた。これらは、見て想像することに對し意義を感じていると考え、【想像力の育成】として分類・整理した。

表 2. 保育者が感じる音楽活動の意義

分類
【季節を感じる心の育成】
【協調性の育成】
【諸感覚の育成】
【感性の育成】
【豊かな心の育成】
【表現力の育成】
【想像力の育成】

5. 考察

今回の調査により、182名の回答者のうち81%にあたる148名の保育者が「音楽活動」を日常の園活動に取り入れていることが確認できた。また、「有意義」と感じている保育者は159名の87%であり、多くの保育者がその意義を感じていることも分かった。特徴的な結果として、歌うこと以外の音楽活動で「和太鼓」41名(21%)が挙げられたことである。その理由としては、筑豊地区には和太鼓・神楽の団体が多く存在していることが挙げられる。「国

の登録有形文化財」である嘉穂劇場が飯塚市内にあることで、昭和初期より和太鼓の文化が根付いている。その為、周辺の中学校・高等学校には和太鼓部が多く存在し、各地域にも和太鼓団体が存在している。地域の文化を色濃く反映した結果であると考察される。

また、共起ネットワークにおいて多くの語が存在することが分かった。このことにより、日々の園生活において音楽活動が子どもたちの活動や園生活全般に影響していることが伺える。

共起ネットワーク分析から、音楽活動は7つの場面に分類された(表1)。幼稚園教育要領における領域「表現」の内容では、「(6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう」³⁾ という記述がある。これらは、本調査で明らかになった【リズムあそび】【季節のうた】【生活のうた】【教室のうた】【手あそびうた】【器楽合唱】【器楽演奏】とすべての分類と関連すると考えられる。「(2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする」⁴⁾ という記述に関しては、【季節のうた】とも関連すると考えられる。「(4) 感じたこと、考えたことなどを音の動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする」⁵⁾ という記述についても、【器楽演奏】と関連すると考えられる。しかし、本研究ではあくまでも活動が行われていることが把握できたにすぎず、指導内容については把握していない。今後は指導内容についても明らかにする必要がある。

また、保育者が認識する音楽活動の意義についても7つに分類された(表2)。幼稚園教育要領における領域「表現」のねらいでは、「(1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。」⁶⁾ という記述がある。これらも、本調査で明らかになった【季節を感じる心の育成】【諸感覚の育成】【感性の育成】【豊かな心の育成】【表現力の育成】【想像力の育成】と多くの分類と関連することが考えられる。【表現力の育成】においては、「(2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」⁷⁾、「(3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」⁸⁾とも関連すると考えられる。

歌う活動が、「言葉の発達」に「大いに影響する」と回答した保育者は56名(31%)であった。一方、「身体の発達」について、「大いに影響する」と回答した保育者は23名(13%)にとどまった。これらのことから、現場の保育者は音楽活動が主に言葉の発達に影響していることが明らかになった。

これまで、筑豊地区での音楽活動の状況や保育者の認識について調査・研究されることがなかった。現場の現状を把握できたことは大きな収穫である。今後、筑豊地域における保育施設・幼稚園での音楽活動をより良い内容にしていくために、現場の保育者と連携を行い、保育者のスキルアップに繋がるよう今回の結果を活かしていきたいと考える。そして、今後の課題としては、音楽活動を取り入れていないと回答した保育者へのアプローチであると考えられる。全く音楽を取り入れない環境で、子どもたちがどのように日々の活動を行っているのか、大変気掛かりであり改善の余地がある。筑豊地域の全ての保育施設で、音楽活動が取

り入れられる環境に整備していきたいと考える。

6. おわりに

本研究では、筑豊地域の保育現場における音楽活動の一端が明らかになった。保育・幼児教育の基本が遊びであることを考えると、音楽活動における子どもの自主性・主体性のありようも重要な論点となりうる。しかし、本研究で把握された音楽活動が、自主的な遊びの要素を伴うものなのか、保育者主導で一斉に行われるものか（例えば、保育者の指示で一斉に声を合わせて歌う）など、活動の形式にまで踏み込んで把握することはできなかった。この点に関しては、今後の課題としたい。

本研究は、基礎研究である。筑豊地区における唯一の保育者養成校である本校において、筑豊地域の幼児教育における責務は非常に大きい。これまで多くの卒業生を保育者として送り出し、多くの園で活躍している。今後、さらに各園との連携を強めていく中で「音楽活動」をこれまで以上に充実できるものにしたいと考える。そのためには、保育者のスキルアップが必要である。まずは、保育者が音楽活動を楽しむことが必要であり（溝口、2020）、保育者が楽器や手あそびうたを体験し、新しい手あそびや地域によって異なるあそびをインプットできる場を設けたいと考える。この調査を通して、今後の筑豊地域における保育の質の向上に尽力したい。

付記

本研究は、JSPS 科研費 JP20K02672(研究代表者：堀田亮)の助成を受け実施された調査をもとに行われた。

引用・参考文献

- 1) S Moreno, E Bialystok, R Barac, EG Schellenberg, NJ Cepeda, T. Chau, Short-term music training enhances verbal intelligence and executive function, *Psychol. Sci.* 22 (11) (2011) 1425–1433.
- 2) Kosokabe, T., Mizusaki, M., Nagaoka, W., Honda, M., Suzuki, N., Naoi, R., & Moriguchi, Y. (2021). *Self-directed dramatic and music play programs enhance executive function in Japanese children. Trends in Neuroscience and Education, 24, 100158.*
- 3) 文部科学省 (2017) 『幼稚園教育要領』
- 4) 前掲 3)
- 5) 前掲 3)
- 6) 文部科学省 (2017) 『幼稚園教育要領』

7) 前掲 6)

8) 前掲 6)

岡部裕美 (2009) 「音楽表現」におけるリトミックの実践～身体を楽器にした音楽表現を中心に～」千葉大学教育学部研究紀要 第 57 巻 379-384 頁

高牧恵里、松井いずみ、荒金幸子 (2021) 「幼児期におけるリトミック活動の身体的影響について—4 歳児の活動を中心に—」武蔵野大学しあわせ研究所紀要 (4) 75-87 頁

白石昌子 (2006) 「乳幼児の発達と音楽の関係 —音楽の機能が及ぼす影響についての検討を通して—」福島大学人間発達文化学類論集 第 3 号 13-25 頁

今由佳里、尾辻奈摘子 (2021) 「幼稚園における手遊び歌に関する実践的研究—「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」領域との関連—」鹿児島大学教育学部研究紀要 教育科学編 第 72 巻 29-47 頁

椎山克己、久世安俊、福島さやか (2019) 「歌唱活動の実態調査を通じた幼児教育の在り方に関する研究」国際幼児教育学研究 Vol. 26 147-157 頁

梶間奈保、小池美知子、居原田洋子 (2020) 「乳幼児の音楽的コミュニケーション概念の開発—音楽的発達に関する先行研究を踏まえた手遊び研究の意義—」島根県立大学松江キャンパス研究紀要 Vol. 59 33 - 38 頁

志村泉、山口星香、小野貴史 (2022) 「音楽鑑賞教育における自由記述による知覚・感受側面の分析 —テキストマイニングツールを活用した鑑賞授業の実践をもとに—」信州大学教育学部附属次世代型学びの研究開発センター紀要『教育実践研究』No. 21, 31-40 頁

ヤマハ音楽研究所研究開発室 (2013) 「現代における子どもと音楽のかかわり—4、5 歳児の保護者へのアンケート調査結果から—」ヤマハ音楽研究所 調査レポート

樋口耕一 (2014) 『社会調査のための計量テキスト分析 - 内容分析の継承と発展を目指して—』ナカニシヤ出版

溝口綾子 (2020) 「幼稚園における音楽表現活動の実際—楽器遊びの取り組みに着目して—」帝京短期大学紀要 第 21 号 27-36 頁
